



## 帰りなん いざ田園へ

中 村 茂 樹

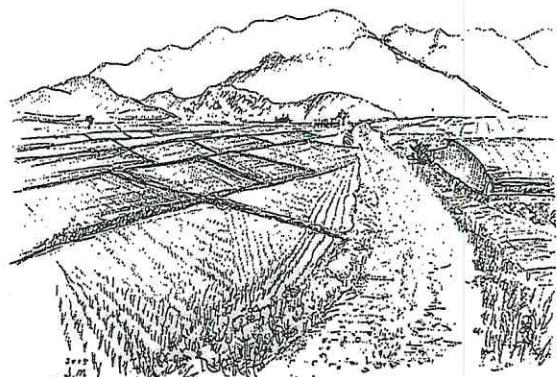
妻の実家になつく男と、そうでない男の2種類がある。どうも私は前者のようで、車で30分ほどの妻の実家（専業農家）から誘いがかかるのを、当の妻よりも楽しみにしている。そこで体験する農作業の愉快さと、人々の温かさの故だと思う。今年の5月の連休は、ほぼ毎日、豊栄にある彼女の実家で過ごした。

今回の仕事は、田んぼに有機肥料を撒くことだった。「有機肥料」などという商品が、最初からあるのではない。冬の間、枯れ葉などを積み上げて発酵させた手作りのボカシ、鶏糞、カキ殻などを袋詰めにして、田んぼの面積に応じて準備する。田んぼ1枚あたり軽トラック1杯分くらいにもなる。この原料を男3人が混ぜ合わせ、ゆっくり前進するトラクターの荷台の上から、田んぼ全体に行き渡るよう、スコップで撒くのだ。1年の期待を込めて、注意深く、そしておおらかに。

今年は強風にやや手こずったが、5月の風に吹かれて、蒲原平野の真ん中に立ち五頭山麓を望めば、まことに氣宇壮大である。

軽く汗ばんだところで畦道に腰を下ろして一服する。義弟は「身土不二」（身体と農作物やその環境は一体であるとの理念）を実践し、また良寛様を心の鏡として、アナログな人生を楽しんでいるユニークな農夫である。その彼が横笛を取り出し、村の神樂のお雛子を披露してくれた。いい音だ。能も歌舞伎も、こうして田んぼの畦道から生まれたのだ。隣の田んぼは家族総出で田植え中で、見知らぬ私も「ご苦労様です」と会釈する。春の小川が流れている。

きりのいいところで、楽しい昼食の時間だ。顔と手を洗った男たちを、手際よくお嫁さんが待っていてくれる。今回のもう一人の助手である〇さんは、昨年 新潟大学を卒業した青年で、この連



休にはるばる広島からこの家へやってきた。在学中には「田んぼの学校」や「援農村」という市民サークルを立ち上げ、親子連れや学生たちに農業体験や自然観察をさせてきた農業ボランティアである。〇さんやこの家の子供たちと、みんなで卓を囲む。

ひと休みして、午後は二手に分かれ、指導者であるお嫁さんと鶏舎に向かう。田んぼの真ん中に自分たちで建築した3棟の鶏舎に、500羽の鶏が放し飼いされている。養鶏としては小規模だが、品質第一をポリシーとする夫婦は、これでいいという。

お嫁さんがサラダ代わりの雑草を刈る間に、私が自家製の餌を一部屋ずつ、大きなポリバケツに用意する。合計約11kg、鶏の数や状態により日々、義弟が指示をする。彼女がこの餌と雑草を撒く間に、私が約300個の集卵をする。そおっと暗い巣箱を開けると、じつとうずくまって卵を温めている雌鶏と、目が合う。「ご苦労様、お食事の時間です」おそるおそる雌鶏を両手で持ちあげる。

中年の私は、若い当主よりひとあし早く仕事をあがる。お風呂のあとは、暮れ行く庭を眺めながら、義父と一杯やるならわしだ。肴はとれたての

野菜と、生みたての卵。待ち遠しい時間である。

このほかにも季節により、田植え、草取り、稻刈り、餅つきなど、農作業といつてもさまざまだ。この家に集う仲間も学生、主婦、銀行の店長、教授夫人など様々で、軽作業をともにしながらの気の置けない会話が楽しく、また興味深い。

思うに、農業にはあらゆる仕事の原型があるのではないだろうか。リーダーとスタッフ。朝の段取り、昼の仕事、夕の片付けと明日の準備。そして一日の終わりには、笑顔とねぎらいに満ちた食卓。また私の経験では、農業は単なる肉体労働ではなく、人の和を尊重しつつ、自然などの諸条件に臨機応変の判断を求められる、きわめて知的なチームプレイである。

振り返って、病院という職場を見る。無機質なビルの中で、人間が相手なのに、同じ毎日を繰り返していないだろうか。心が求められているのに、効率や利益が追求されていないだろうか。だいいち「先生、先生」などと長年呼ばれ続けていると、

自分が偉いかのような錯覚をしがちだ。土をいじると、この「乱視」は知らぬ間に矯正される。まためいめいが勝手な主張をしていたら、農作業はたちまち滞り一家は困窮するだろうが、病院という組織はどうだろうか。さらに農業に習えば、年齢や性別は解消すべき差ではなく、歓迎すべき多様性であろう。

ここまで気張らなくても、欧米では週末の農作業は一種のステイタスである。ブッシュ大統領は小泉首相を自分の農場へ招待し、トラクターを操って、ご満悦でカメラに向かって手を上げていた。私の友人のフランス人外科医(Philippe Mouriet先生、腹腔鏡手術の創始者)も、農村に住まいを持ち、週末は畑と馬の世話をしている。以前に日本へ来たときも、京都の高級料亭より新潟のこの家で庭や田畠を見て、強くエキサイトしていた。

医師たちよ、ときには長靴を履いて田園へ出よう。帰りなん、いざ田園へ。

(新潟県立加茂病院 外科)